

第12回

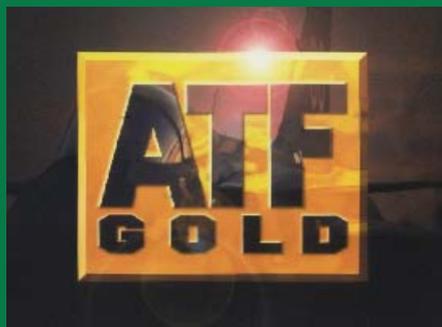
爆弾を抱いて大空に舞え！

Advanced Tactical Fighters GOLD

小笠原 誠

初回 ゲームの王国

コンピュータゲームにはいろいろなジャンルがあるが、アメリカでは幅広い人気を獲得しているのに、わが日本ではいまひとつ芽えぬものといえ...。そう、フライトシミュレーターだ。そろそろ日本でもブレイクすると言われ続けて、はやウン年。なんだか難しそうと初心者に敬遠され、結局今でも、一部のマニアの間でのみ盛り上がっているというのが現状だ。しかし、何事もやってみなければ分からないというもの。そろそろ偏見は捨てて、この奥深いジャンルに挑戦してみてはいかがだろうか？



開発元 : エレクトロニック・アーツ・ビクター
価格 : 8,800円
(完訳マニュアル付き特別パック)
関連情報 : <http://www.ea.com>
<http://www.battle.net>
動作環境
対応OS : ウィンドウズ95
CPU : ペンティアム90MHz以上
(120MHz推奨)
対応機種 : PC/AT互換機
メモリー : 16Mバイト以上
ハードディスク : 60Mバイト(100Mバイト推奨)
要ダイレクトX3対応

Take Off!

全米で大ヒットした 人気ソフトが日本に上陸!

一口にフライトシミュレーターといっても、その内容はさまざま。このジャンルを代表する作品「Microsoft Flight Simulator」のように、純粋に

航空機の操縦という行為を再現するものもあれば、それに加えて戦闘という要素を導入した、軍事系のフライトシミュレーターもある。また、同じ軍事系のフライトシミュレーターでも、あくまで実際の戦闘機(ソフトによっては攻撃機や爆撃機)の操縦を再現することに重点を置いた、シミュレーション性を追求したのから、多少リアリティーは犠牲にしてもプレイのしやすさを優先する、どちらかといえばシューティングゲーム寄りのものまで、その内容にはかなりの差があるのだ。

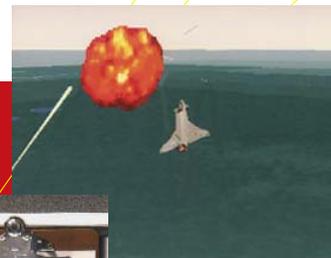
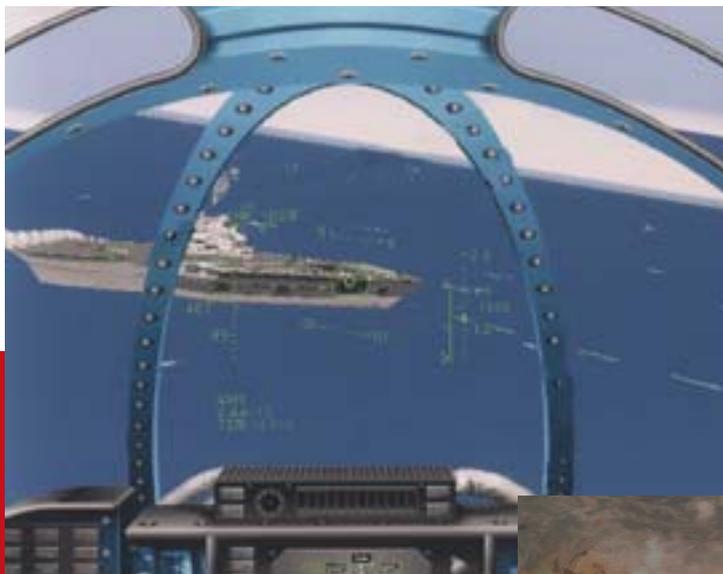
今回紹介する「Advanced Tactical Fighters GOLD(以下ATF GOLD)」は、数ある軍事系フライトシミュレーターの中でも、いわゆる正統派とされる作品。全米で大ヒットを記

録したDOS版ソフト「US NAVY FIGHTERS」の続編で、ウィンドウズ95のネイティブ化を果たした「ATF」それに、追加シナリオや新しい機体データを追加したシリーズ最新作だ。しかも「US NAVY FIGHTERS」の元をたどれば、Microprose社の「F-15」やSpectrum Holobyteの「Falcon」と並ぶ名作「Chuck Yeager's Air Combat」シリーズにたどり着く。まさに由緒正しい、血統書付きの作品というわけだ。

このソフトを立ち上げてまず驚くのは、その美しいグラフィック。画面は、最大1024×768ドットのハイレゾ表示(320×200ドットも選択できるけど...)だし、機体はもちろん、空や地表にもちゃんとテクスチャーを張り付けることが

できる。硬派フライトシミュレーターの中にはグラフィックがいまひとつというものが多く中、この美麗な画面のアピール度は大きいはずだ。

ところで、高解像度の美しいグラフィックと聞くと、相当処理が重くなると考えるのが普通。実際、「US NAVY FIGHTERS」がリリースされたときは、そのあまりの処理の重さが指摘されたものだ。ところが、基本的なシステムが同じである「ATF GOLD」をプレイしていても、それほど処理が重いとは思われない。よくよく考えてみると、「US NAVY FIGHTERS」が発売された約2年前の時点では、たしかペンティアム133MHz搭載機が最速マシンだったはず。それが、いまやペンティアム166MHz搭載機がスタンダードという御時世では、それほど処理が重くないと感じたのも当たり前。まったくこの世界は進歩のスピードが速いからありがたい。



Advanced Tactical Fighters GOLD

Let's Try!

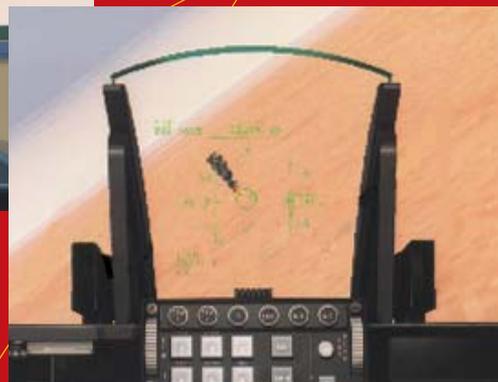
これが正統派フライトシミュレーターだ!

フライトシミュレーターというジャンルは、他のどんな要素にも増して、リアリティーが重要になる。ディープなマニアが多いただけあって、ちょっとでも現実にそぐわない部分があると、「こんなのはフライトシミュレーターとは言えない、単なるシューティングゲームじゃないか」なんて非難されてしまうのだ。そんな中で「ATF GOLD」は、さすがに定評のあるシリーズだけあって、特に目立つ穴は存在していない。その筋の方々の間でも、水準を大きく超えた作品との評価を得ている。これからフライトシミュレーターに本格的に挑戦しようとする場合は、やはりこうした多くの人が認めるソフトを選ぶのが得策だろう。

しかし、リアル志向を強めれば強めるほど、ゲームとしては難しいものになってしまうのも事実。百戦錬磨のマニアならそれでもいいが、初心者にとっては、かなり敷居が高いものになってしまう。その点、このソフトには、初心者でも安心の“チート”オプションという、非常に便利な機能が用意されている。この機能を利用すれば、機体をストールしにくくしたり、武装を無制限にしたりと、ビギナーでも最初からゲームを楽しめるように、難易度を調整することができるようになるのだ。これなら、戦闘型のフライトものはあまりプレイしたことがないという初心者プレイヤーでも、十分対処ができるはず。まあ、ズルといえばズルだが、それでも難し過ぎて投げ出してしまふよりはいいよね。



▲ ヘッドアップディスプレイと各種計器が並ぶコックピット。



▲ 「ATF」の特徴でもある、高解像度表示による外ビュー画面。戦闘機マニアの諸君なら、思わずむせび泣いてしまうかも。



▲ もちろん、テクスチャーをフルに張り付けるには、それなりのマシンパワーが必要になる。やっぱり最低でもペンティアム/166MHzは必要かな。



これがあればモアベター

いくらチート機能が用意されているとはいえ、やはり「ATF」は本格派のフライトシミュレーター。一般的なシューティングゲームと比較すると、それなりに難しい部分もある。

特に初心者にとって難しいのは、キーボード操作だ。基本的な機体のコントロールはもちろん、各種計器の表示切り換え、スロットルの出力率など、ゲーム中に使用するキーは、それぞれキーボードのかなりの範囲に及ぶ。どこにどのキーがあるのかを完全に把握していないビギナーだと、満身に飛行するこ

ともできないだろう。ここは、ぜひともソフト的に機能を割り当てること可能なボタンを複数備えた、いわゆるプログラマブルタイプのジョイスティックがほしいところ。もちろん、ちゃんとしたプログラマブルタイプのジョイスティックは1万円以上とそれなりのお値段はする。購入するには少々勇気がいるかもしれない。しかし、これがあるのとないのとでは、操作感覚に天と地ほどの開きが生じる。キーボードでプレイしてみて、どうしても操作に慣れることができないという場合は、思い切ってゲットしてしまうべし。



▲ 米国スラストマスター社の各種コントローラー。この3点があれば鬼に金棒だ!

Operations!

エースパイロットを目指せ!

ここ数年、まるでアドベンチャーゲームであるかのように、大幅にストーリー要素を取り入れたフライトシミュレーターがちらほらと見受けられる(愛と友情、そして裏切りとかね)だが、「ATF」シリーズは正統派志向の作品。そんなフライトシミュレーターとしては邪道と取られかねない要素とは無縁だ。

それでは、具体的にどうゲームを進めるのかというと、これがまさに王道。キャンペーンシナリオ制が採用されているのだ。このキャンペーンシナリオというのは、次々と与えられる小規模なミッションをクリアしていくことにより、最終的な目標を達成するというもの。フライトシミュレーターに限らず、軍事モノのシミュレーションゲームではおなじみのシステムだ。

「ATF GOLD」に収録されているシナリオは、東欧諸国で過激分子をせん滅する「The Baltics 2009」、中東地域の平和を守るために独裁者と戦う「Egypt 1998」、世界を冷戦時代に逆戻りさせようとする反動主義的政権を打倒する「Russia 2002」の3つ。それぞれかなりのボリュームなので、すべて攻略しようとするとなんかの時間が必要になるだろう。



▲ マップにより、作戦実行地域までの飛行ルートを確認。オートパイロット機能で自動的に進むこともできるけどね。



▲ ミッション内容を説明する文章は、やや堅めの英文。まあ、辞書をかたわらに置いておけば大丈夫だろう。



▲ ミッションによって、攻撃目標は大きく異なる。無駄な努力をしないためにも、よく指令の内容を確認すべし。

リアルなミッションにはワケがある

「ATF」に用意されたミッションは、基本的に架空のものになっている。しかし、現実には起こったことではないからといって、馬鹿にはいけない。各ミッションで描かれる紛争は、それぞれ、いつ実際に起こってもおかしくないと感じてしまうほどリアルなのだ。

この抜群のリアリティーを実現した背景には、あるモノが存在している。そのあるモノとは『ジェーンズ年鑑』だ。イギリスのJane's Information Groupが作成する軍事レポー

ト『ジェーンズ年鑑』。その内容は正確無比とされ、世界の報道機関はもとより、政府機関からも絶大な信頼を寄せられている。特に軍事方面に関心がない人でも、テレビや新聞で「『ジェーンズ年鑑』によると、××国は地域に新たな部隊を展開している模様...」なんて言葉を一度は目にしたことがあるはずだ。「ATF」は、その全面的な監修を受けているのだ。ミッションの内容が妙にリアルなもの、当然といえば当然というワケだね。



▲ 軍事マニアなら、必須のアイテムといえるだろう。

Fighter!

次世代戦闘機も乗りこなせ!

各種機体のデータがネット上で流通している「Microsoft Flight Simulator」は別格として、ほとんどのフライトシミュレーターでは、プレイヤーが操縦できる機体は1機種に限定されている。ところが、この「ATF GOLD」は違う。いわゆる次世代戦闘機を中心に、なんと11種類もの機体を操縦することができるようになっているのだ。

しかも、登場するのは、F-117やB-2A、F-22といった、アメリカ産の機体だけではない。

東西冷戦終了後、アメリカとロシアの2大国が協力関係にある世界を舞台にしているので、Su35など、ロシア製の最新鋭戦闘機も操縦できるのだ。さらにはヨーロッパ各国が現在共同開発を進めている次世代主力戦闘機ユーロファイター2000、スウェーデンのサーブ・ビゲンといった機体も登場するとすれば、いやあ、マニアにとってはこたえられませんな、これは。



F-117

湾岸戦争で一躍有名になったステルス機。レーダーを攪乱する独特の形状のため、操縦が目茶苦茶難しいパイロット泣かせの機体らしいが、ゲームでは特にその難しさは感じられない。



B-2A

アメリカ空軍が誇る、次世代主力爆撃機。当然ながら対空戦闘能力はゼロに等しいので、敵戦闘機に見つかったら非常にヤバイ。この機体もステルス性を有しているが、安心は禁物だ。



Su-35

世界最強との噂もある、ロシアの次世代戦闘機。さすがに電子機器ではアメリカ製の機体には及ばないようだが、飛行中の姿勢制御に関しては、並ぶものない性能を有しているという。



Preference

ネットワーク 対戦に挑戦!

「ATF GOLD」の製品CD-ROMには、見知らぬプレイヤーとインターネットを通じた対戦プレイを楽しむための「Mplayer」というシステムの導入ソフトウェアが収録されている。

モノが本格派のフライトシミュレーターだけに、そのネット対戦も非常に高度で難しいものに違いないと考える人もいるだろう。どっこい、これがけっこう簡単なのだ。この「ATF GOLD」のネット対戦では、撃墜された時点で終わり、というものではない。制限時間内であれば、いくらでも復活できる。最終的な勝利者は、時間内に多くの敵機を撃墜した者のなるのだ。そのため、細かいことは気にせずに、ガンガン攻めていけばいい。ね、これなら気が楽でしょ。それに、いきなり戦闘空域の空中からゲームがスタートするので、離陸や戦闘空域までの移動が面倒だというヘボチンクのプレイヤーでも、十分楽しめるぞ。

残念ながら「ATF GOLD」のMplayer用のサーバーは、原稿執筆の段階でまだ立ち上がっていない。しかし、IPアドレスを指定してのLAN対戦でなら他のプレイヤーと対戦することができるので、「Mplayer」での対戦ができるようになるまでは、LAN対戦で腕を磨いてほしい。



① メニューの「Multi」から「TCP/IP Network」を選択する。



② 「NETWORK CONNECTION」画面の「Callsign」で自分の名前を入力する。



③ 「Number of Players」を選択してプレイヤーの人数を決定する。



④ 「GROUP ID」から、参加プレイヤーと同じ「GROUP ID」を選択する。



⑤ 「here」を選択して、参加者はホストプレイヤーのIPアドレスを入力し、参加者は「Call」をクリックしてホストのパソコンにアクセス。ホストプレイヤーが「Answer」をクリックするとアクセスが完了する。

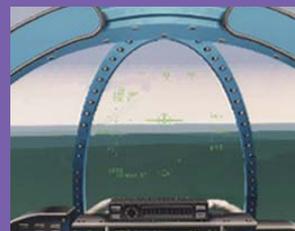
日本語版について

「ATF GOLD」には完全日本語訳の豪華マニュアルが付属しているが、ゲーム本編は英語のまま。これでもプレイに支障は生じないのだが、中にはそれでは満足できないという、英語アレルギーの人もいるはず。そんなあなたに、おすすめのソフトがある。同じくEAVからリリースされる「アドバンスド・タクティカル・ファイターズ(9,800円)だ。

このソフトは、みなさんお察しのとおり、「ATF GOLD」の前作「ATF」の完全日本語移植版。登場する機体が7種類と、「ATF GOLD」と比較すると4機種少ない。収録されたシナリオが、「Egypt 1998」と「The Baltics 2009」のみ。以上のようなマイナス面はあるものの、なんたって完全日本語

訳。ミッションブリーフィングも日本語なので、プレイ中にマニュアルを見る必要はない。こりゃあ楽だ。

あとは、「Mplayer」を日本からでも楽しめるようにしてほしいよなあ。この日本語版には「Mplayer」は収録されていないのでメーカーさん、よろしくね。



▲当然ながら日本語の字幕が表示される。



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp